

# 2016 年度 大学院言語文化研究科附属言語文化研究所事業一覧

## I. 研究部事業

### ①研究員による基礎研究

#### 1. 鷺麗美知ゾラナ（文学部准教授）

「Bilingual dual coding and L2 idiom acquisition」

### ②研究員による共同研究

研究題目 「グローバルに生きる：

Living Globally」

代 表 者 リチャード A. ローガン（文学部教授）

分 担 者 グラハム児夢（文学部准教授）

蔣 垂東（文学部教授）

糸井 江美（文学部准教授）

鈴木 誠（経営学部准教授）

武田 和恵（文学部准教授）

長谷川 清（文学部教授）

福田 倫子（文学部准教授）

山川 智子（文学部准教授）

アレック・ラメイ（文学部専任講師）

鷺麗美知ゾラナ（文学部准教授）

稲垣 泰一（文学部元教授）

于 日平（中国・北京外国語大学教授）

大瀧 幸子（本学非常勤講師）

クレッグ・ジョンストン（法政大学非常勤講師）

佐藤 一樹（二松学舎大学教授）  
徐 滔（北京外国語大学准教授）  
宋 洙珍（韓国・仁荷大学校兼任講師）  
孫 潔（中国・南民族大学講師）  
平川眞規子（中央大学教授）  
王 唯斯（中国・北京大学日本語MTIセンター）  
金 瑋婷（中国・北京外国語大学博士課程）  
陳 澤佳（中国・北京外国語大学博士課程）

### ③研究例会

第 1 回 2016年6月22日（水）16：20 437R

発表題目：「夏目漱石の『画』と『詩』」

発表者：神田 祥子（文学部日本語日本文学科専任講師）

第 2 回 2016年10月26日（水）17：00 416R

発表題目：「ジーン・リースとクロード・マッケイの  
カリビアンモダニズム」

発表者：井上 正子（本学非常勤講師）

### ④紀要発行

2017年3月16日発行『言語と文化』第29号

### ⑤2015年度研究員による基礎研究の報告

1. 研究題目 「英語教員養成における英語絵本の活用」

研究者 糸井 江美（文学部准教授）

## ⑥2015年度研究員による共同研究の報告

研究題目 「グローバルに関心を持つ

Global Curiosity」

代 表 者 リチャード A. ローガン（文学部教授）

分 担 者 グラハム児夢（文学部准教授）

蔣 垂東（文学部教授）

稲垣 泰一（元文学部教授）

程 玲（中国・厦門理工学院教授）

張 晶（準研究員／杏林大学博士課程）

王 倩（準研究員／杏林大学博士課程）

大瀧 幸子（本学非常勤講師）

三枝 優子（文学部専任講師）

菅谷 有子（本学非常勤講師）

宮部真由美（本学非常勤講師）

長谷川 清（文学部教授）

邵 建国（中国・北京外国語大学教授）

李 晨（準研究員／中国・北京外国語大学博士課程）

唐 亮（準研究員／中国・北京外国語大学博士課程）

施 俊艶（準研究員／中国・北京外国語大学博士課程）

陳 澤佳（準研究員／中国・北京外国語大学博士課程）

平川真規子（文学部教授）

浅野 明代（東京国際大学教授）

鈴木 一徳（研究員／言語文化研究科博士後期課程）

平成27年度の共同研究は、「グローバルに関心を持つGlobal Curiosity」というテーマをもとに、各分野から研究された。それぞれの研究成果は、

研究会や紀要「言語と文化」第28号にて発表された。

【紀要】

- 1) 菅谷有子：『理工学系話し言葉コーパス』における複合辞の特徴—  
中級日本語教材をアカデミックなコミュニケーション能力に繋げ  
るために—
- 2) 鈴木一徳：「英語を母語とする日本語学習者を対象とした日英語の  
ナラティブの比較—トピック名詞句に着目して—」
- 3) 唐 亮：「従属節におけるル形の性質と時間前後関係」
- 4) R.ローガン：「遠藤周作と人種のアイデンティティ」
- 5) 王 倩：「漢日口译中汉语非成语四字词的口译技巧」
- 6) 糸井江美：「英語教員養成における絵本活用の可能性をさぐる」

【研究例会】

- 1) 陳 澤佳：「完全否定を表す副詞に関する考察」
- 2) 馬 玲燕：「中国の日本語MTIの現状と課題」

研究部より

リチャードA. ローガン

今年度も研究部を担当させて頂いた。大学院付属の研究所として、先生方や院生のために少しでもお役に立つよう努めた。蔣垂東所長や松崎さんからご助力を得て、計画した研究活動を無事に終わることができた。

今年度の共同研究のテーマ「グローバルに生きる」を基に、各分野（日本文学、日本語教育、英語教育、中国語学と中国語教育、社会学など）

から研究がなされた。多文化時代に相応しく、それぞれ多角的な観点から研究がなされた点で、今後大いに成果が期待される。今年度の紀要にも興味深い研究論文が多数寄せられた。

研究部は毎年研究定例会を開催している。詳細は前述の活動報告を見ていただくとして、今年度第一回は文学部教授神田先生に、第二回は、文学部非常勤講師井上先生にそれぞれ発表をしていただいた。さらに充実した研究会にすることができ、感謝申し上げます。

このように充実した研究活動が行えるのは、共同研究と基礎研究にご参加頂いた先生方、ならびに紀要掲載論文をご執筆くださった先生方のお蔭である。そして研究定例会で発表された先生方、院生、研究員の皆さんのご協力も必要である。これからも言語文化研究所へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

## Ⅱ. 研修部事業

### ①夏期公開講座報告

#### (1) 英語教育夏期講座

—英語を学び続ける—

対 象：中学校・高等学校英語科教員または教員志望者。

埼玉県内在住または勤務する方。

目 的：英語教育についての理解を深める。

期 日：平成28年8月3日（水）

会 場：文教大学越谷校舎 3号館（3401R）

参 加 者：36名

## 講義・発表内容

### 講義① 「Revisiting the Stages of Language Acquisition」

福田 スティーブ 利久（文教大学）

Most people have had experience learning a language. Unfortunately, not many of us were taught how languages are learned or how long it takes to learn a language. Are the processes and characteristics of learning a language that obvious? I believe that a deeper understanding of how languages are learned will assist anyone learning or teaching a language. The lecturer will start by introducing his experience of learning Japanese and English three times each. In addition, ideas from the language teaching and learning research field will be used to discuss the concept of how languages are learned. Content from this lecture is used in the lecturer's university English courses to help his students learn English more effectively, especially from the psychological point of view. The lecture may be of interest to Japanese English teacher or English language learners.

### 講義② 「日本人英語学習者の英作文に対する

フィードバックのあり方を考える」

小川 喜正（昭和女子大学）

第2言語によるパラグラフィティングに対するフィードバックに関しては、様々な問題が論じられています。文法エラーに関する添削そのものが有効であるか否かという点、内容に関するコメントと文法エラーの添削の効果的優劣、内容に関するフィードバックと文法に関するフィードバックを与える順序、特定の文法項目のみ

に焦点を合わせた添削とすべてのエラーに対する添削の效果的優劣、教師の認識と学習者の印象の違いなどが論争点に含まれます。今回はTruscott, Ferris, Michenerなどの理論に関連付けながらこれらの諸問題を概観し、ESLとEFLの環境的違いも考慮しながら、日本人英語学習者の作文に対する効率的なフィードバックのあり方を考えます。

### 講義③「英語教育研究からの示唆と英語多読の活用」

中西 貴行（獨協大学）

英語教育の研究結果から分かっていることを概観し、参加者の方とディスカッションをしながら進めていきたいと思います。その後、英語多読に関して説明し、その活用と実践に関して実面的な面に焦点をあてていきます。多読を授業内での活用のみならず、授業外でどのように行うのか、評価はどうするのかなどについても考えていきたいと思います。

### 英語教育夏期講座

#### （2）日本語教育夏期講座

一東アジア日本語教育の現在—

対 象：日本語教育に携わっている方、または日本語教育に

関心のある方。埼玉県内在住または勤務する方。

目 的：日本語教育についての理解を深める。

期 日：平成28年8月3日（水）

会 場：文教大学越谷校舎 3号館（3301R）

参 加 者：17名

## 講義・発表内容

### 講義①「韓国人日本語学習者の学習動機ならびに初級学習者の問題点」

宋 洙珍（韓国・仁荷大学校）

グローバル時代に外国語学習は生き残るために絶対必要なものであります。特に日本語は韓国人にとって欠かせない外国語であります。日本を直接に経験しようとする韓国人の需要は減っておらず、日本語の勉強を始める学習者数は一定の水準を保っていますが、日韓関係が良好な時期には日本語を勉強する人が増えるなど、両国の友好関係が学習者に大きく影響を与えていることが分かります。日韓両言語は文法構造に共通点が多く、相互習得しやすい言葉であります。相違点も存在し、初級学習者が両言語の類似性にばかり注目し相違点を見過ごそうになると、間違いを犯す場合があり、今回はこれらの問題について述べたいと考えます。

### 講義②「韓国人日本語学習者への指導法—中級から上級へ—」

牟 世鍾（韓国・仁荷大学校）

日韓両言語は似ており、日本語は韓国人に比較的習得しやすい言語であります。しかし、ある程度以上の日本語を話すためには、社会の多様な分野の多くの言葉を覚えなければならず、韓国とは異なる日本の文化を正しく理解しなければなりません。また、日本人と



直接会う機会を増やす必要もあります。従って、上級レベルの日本語を習得させるには、日韓両言語の相違点や韓国と違う日本の文化などを正しく捉えながら、マスコミ、新聞、小説などから豊富な語彙力と考え方を身に付けるようにしなければならないと考えます。

### 講義③「中国の大学における日本語教育の状況と展望」

戴 秋娟（中国・北京外国語大学）

国際交流基金の調査によると、中国における日本語学習者の数は、ついに100万人を突破しました。世界第一位の日本語学習大国となった中国では、日本語はすでに英語に次ぐ第二の外国語の地位を確立しました。日本語学習者の学習目的は何でしょうか。彼らが日本語を勉強している中で、特に難しいと思われるところ、間違えやすいところは何でしょうか。北京外国語大学の教育現場の話をご紹介します。今後の海外における日本語教育のあり方について皆様と一緒に考えたいと思います。

### 日本語教育夏期講座

#### （3）中国語教育夏期講座

—中国語新しい学び方への提案—

対 象：中国語教育に携わっている方、または中国語学習

者。埼玉県内在住または勤務する方。

目 的：中国語教育・学習についての理解を深める。

期 日：平成28年8月3日（水）

会 場：文教大学越谷校舎 3号館（3501R）

参 加 者：30名

## 講義・発表内容

### 講義①「キーワードで現代中国社会を読もう」

戴 秋娟（中国・北京外国語大学）

現代中国社会の変化が激しいです。その中国社会に対する理解を深めるために、一般的によく使われているキーワードの学習が有効な切り口だと思います。今回の講座では、微信（ウィチャット）、広場舞（広場ダンス）、二胎政策（二人っ子政策）、新常态（ニューノーマル）などのキーワードを取り上げ、言葉と概念の解説をしながら、現代中国社会のリアルな現状、庶民の考え方の変化などについて、皆さんと一緒に考えます。

### 講義②「一人でもできる中国語トレーニング

—通訳メソッドを活用しながら—

藤井 達也（埼玉県立伊奈学園総合高等学校）

中国に行かなければ中国語が上手にならない？ ネイティブに教わらなければうまくならない？ そうとも限りません。どんなやり方がどういう面で自分に役立つのかを考えてみませんか。高校の授業で活用している方法や自分の学習の中で有効だったと思えるトレーニング法をご紹介します。いく中で、自分の足りないところを発見し、「明日からこれを続けよう」と思えるものを増やしていただ

たら幸いです。

### 講義③「ことばにみる中国人の思考法

—動詞や量詞の具象性を中心に—

植村麻紀子（神田外語大学）

中国語は「具象性」を好む言語です。複雑な調理法を漢字1字で表したり、傘・椅子・包丁を同じ量詞（助数詞）で表したりするのは、その一例といえるでしょう。また、「おいしい」も飲み物か食べ物かで違う表現となり、お粥やヨーグルトは飲むものとして表現されます。本講義では、動詞や量詞の具象性を中心に、中国人のモノの見方・世界の切り取り方について考えてみたいと思います。

### 中国語教育夏期講座

#### （4）書写書道夏期講座

対 象：小中学校国語（書写）、高等学校書道担当教員。  
書道愛好者。埼玉県内在住または勤務の方など。

目 的：書写書道教育についての理解を深める。  
作品制作を通じて、書の表現力を高める。

期 日：平成28年8月2日（火）A・B、  
8月3日（水）Bのみ、8月4日（木）Aのみ

会 場：文教大学越谷校舎 4号館（422R・426R）

参 加 者：47名

## 講義・発表内容

### A（書文化）コース

426R

講義① 創作（１）・創作の手順

講義② 創作（２）・漢字の書を中心に作品の構想を練る

講義③ 創作（３）・構想をもとに試書する

講義④⑤ 創作（４）・小品（半切以下）を仕上げる

講義⑥ 講義 ・書の鑑賞の態度

講師：吉沢 義和（元文教大学文学部教授）

書作品の創作と鑑賞について学びます。書作品制作の過程・手順を学び、漢字を素材とした創作に取り組みます。受講者によって書道経験はそれぞれでありますが、創作のための基礎から学び、小品作品を仕上げてみましょう。また、制作した作品を通して、作品の鑑賞方法についても学びます。

### B（学校教育）コース

422R

講義① 学習指導要領概説（小中高）

講義② 実技（１）・基本的な用筆法・運筆法

講義③ 実技（２）・漢字（楷書）

講義④ 実技（３）・漢字（行書）

講義⑤ 実技（４）・平仮名・片仮名・漢字仮名交じりの書

講義⑥ 実技（５）・その他（草書・隸書・篆書・仮名など）

講師：豊口 和士（文教大学）

小・中学校国語科書写、高等学校芸術科書道の指導に必要な知識・技能について、基礎基本となる事項について学びます。技能面では、基本的な用筆法・運筆法から始め、書写および書道の学習領域全般について幅広く確認していきます。また、小中高学習指導要領のポイントを概説します。

## 書写書道教育夏期講座

### （５）（特別企画）韓国語教育夏期講座

対 象：韓国語教育に携わっている方、または韓国に関心のある方。埼玉県内在住または勤務する方。

目 的：韓国語教育についての理解を深める。

期 日：平成28年 8 月 3 日（水）

会 場：文教大学越谷校舎 3 号館（3307R）

参 加 者：15名

## 講義・発表内容

講義①「韓国・韓国人、そして韓国語についての基礎理解」

谷澤 恵介（文教大学非常勤講師）

いわゆる韓流ブームが日本人の韓国理解に大きく貢献したことは間違いがありません。しかし今、私たちは韓国の人たちとその言語についてどれほどの知識をもっているのでしょうか？本講義では皆さんと一緒に、韓国と朝鮮半島についての基礎知識をクエスチョン、アンド、アンサーで楽しく確認しあいながら、コリア語の特徴と日本語との類似性についてわかりやすくお話しします。コリア語を勉強したことがない方でも大丈夫です。

## 講義②「ハングルの創製の過程と、その文字の特性を知ろう！」

白 尚憲（文教大学非常勤講師）

ハングルは15世紀に作られた、もっとも新しく革新的な文字です。このハングルの創製の過程には、世宗（セジョン）王と若き学者たちが織りなす壮大なドラマがありました。本講義ではまず、ハングル（訓民正音）の歴史とその特性についてお話しします。そして表音文字であるハングルの構造を日本語の文字音声と対照しながら、わかりやすく説明します。

## 講義③「韓国ドラマと伝來說話～ものがたりで学ぶ言葉と文化～」

山下 英愛（文教大学）

思わずハマってしまう韓国ドラマ。その背景にはストーリーの面白さがあります。そのストーリーにはたいてい伝來說話の要素が埋め込まれています。この講義では、韓国に伝わる神話や説話、童話を紹介しつつ、ドラマのストーリーとの関係を探ります。また、童話を使った聞き取り学習にもチャレンジしてみましょう。

## コリア語教育夏期講座

### ②異文化体験講演会

期 日：平成28年12月7日（水）16：20～17：50

講演者：小山 雅史

（元NHK国際放送局チーフプロデューサー、北京大学外国専門家）

演 題：「北京大学で暮らしてみたら、～日本語教師の3年間～」

北京大学日本語学科の外国人教師として、去年まで大学内の宿舎で暮らした3年間、キャンパスライフや日常生活から見えた北京の学生、暮らしのリアルを語ります。

### 研修部より

平成28年8月2日から4日の3日間、越谷市は好天気恵まれました。晴天の中、文教大学大学院付属言語文化研究所の夏期講座を行うことができました。各参加者、講演者、お手伝いする方々、そして空調の發明家に心からの謝意を表したいと思います。

今年も書写書道講座はAコースとBコースに分けました。Aコースは書文化という内容で、元文教大学文学部教授吉沢義和先生が鑑賞方法などを紹介しました。参加者は30名。Bコースは本学文学部の豊口和土先生が担当し、多面的に楷書、行書、仮名、篆刻などについて実技的に教えました。受講者は17名。書道の講義は3日間に渡って、合わせて47名の熱心な受講者が参加しました。

3号館を会場にした語学関係4部門のメニューも盛りだくさんで、合わせて98名が参加しました。

日本語教育の1講義目と2講義目は、韓国の仁荷大学校からお招きした宋洙珍先生と牟世鍾先生がご担当されました。宋先生の講義は、日本語と韓国語の共通点があまりにも多い為、韓国の初級学習者の相違点を見逃す傾向を食い止める方法などについて述べました。牟先生はレベルに関係なく、日本語で日本人と接するのであれば日本人の文化や社会の特徴を把握する知識が必要不可欠であると強調しました。3講義目の講演者北京外国語大学の戴秋娟先生は、中国での日本語教育の現状を紹介し、何と英語に次ぐ第二の外国語で、学習者は100万人を超えているそうです。参加者は17名でした。

中国語教育の最初の講演は、上記の戴先生による大衆文化の流行り言葉、所謂キーワード、広場ダンスからオンライン文化まで様々なお話で、初めて聞くものが多く実に興味深い講義でした。次に、埼玉県伊奈学園総合高等学校の藤井達也先生が「中国語を学ぶなら日本国内で十分にできるはず」とユーモアを混ぜながら熱く語りました。最後に、神田外国語大学の植村麻紀子先生が動詞と量詞の具象性を中心に、椅子、包丁、ヨーグルト、様々な日常的なものを取り上げながら、言葉を通して中国



人の世界観を紹介しました。参加者は30名でした。

今回、英語教育の講演会は以前とは違い参加者が相当減りました。昨年度の58名より26名少なく、夏期講座の宣伝作戦について考え直す必要があるか、それともタイミングの問題でしょうか。いずれにしても元通りにするのがこれからの大きな課題です。講演者は本校の福田スティーブ利久先生、昭和女子大学の小川喜正先生と獨協大学の中西貴行先生でした。福田先生は心理学的なアングルから英語教育に突っ込み、一般的に外国語を習得するメカニズムを分かりやすく分析しました。小川先生のトピックは如何に英作文を日本人英語学習者に教えるか、フィードバックということはどういうふうに行えば良いのかという難題を取り上げました。最後に中西先生が生徒の英文の読書ライフについてどのように評価するのか、読書に馴染んでもらうにはどうしたらよいのか、という長年の問題に触れました。

特別企画としてコリア語教育講座も設けられました。この企画は初めての試みで、講演者は文教大学の先生方にご担当頂きました。まず、山下英愛先生は、現在ブームになっている韓国ドラマの伝統的なルーツを紹介し、それに関わる楽しいリスニング演習をしました。次に谷澤恵介先生がクイズ方式で韓国への理解と知識を測ってみました。最後に白尚熹先生が分かりやすく「もっとも新しく革新的な文字」ハングルの歴史を説明しました。受講者は15名でしたが、消えそうもないブームの波に乗り、もっと人気を集めるのを期待しています。

2016年度12月7日文教大学越谷キャンパス4号館437Rで開かれた異文化体験講演会の題名は「北京大学で暮らしてみたら、～日本語教師の3年間～」でした。講演者は元NHK国際放送局チーフプロデューサー(2012年～2015年)小山雅史先生。外国人教師として3年間教鞭を執り、沢山の資料を使いながら豊富な経験について熱く語ってくださいました。言葉のプロの小山先生が楽しく総人口世界一位中国の名門中の名門の独特な雰囲気を知り、17名の受講者に紹介しました。